

岡山大理 大島光子

本講演会は平成 15 年 11 月 6 (木)・7 日 (金) に岡山大学創立 50 周年記念館で開催された。今年フローインジェクション分析研究懇談会創立 20 周年に当たり、記念大会として 2 日間にわたって開催された。参加登録者総数は 176 名で、タイからの招待者 2 名と学生 3 名の 5 名の海外からの参加者も含まれている。講演数は、基調講演 1 件、招待講演 7 件、外国よりの招待講演 2 件、口頭講演 12 件、ポスター講演 38 件、新製品紹介講演 2 件であり、企業から機器展示 3 件、カタログ展示 1 件のご協力をいただいた。基調講演は原口紘丞先生 (名大院工) にお越し、タイの FIA グループの Kate Grudpan 先生 (Chiang Mai University) と Duangjai Nacapricha 先生 (Mahidol University) をゲストスピーカーとしてお迎えし、20 周年に相応しい国際色豊かな大会となった。

初日は 9:00 から主に創立 20 周年を記念する招待講演が行われた。最初に本水昌二委員長からフローインジェクション分析研究懇談会の 20 年間の簡単な歴史の紹介と歓迎の挨拶があった。その後、本研究懇談会が誇りとする会誌 JFIA の 20 年について、編集委員長の酒井忠雄先生 (愛知工業大) による講演が行われた。FIA の専門誌は世界で本 JFIA のみしか存在しないことから、編集委員長をおき審査制を整えた経過、最近では海外からの投稿が増え外国研究者との交流が盛んになったことなどの紹介があった。続いて、これも本研究懇談会の大きな任務である公定法化への取り組みの歴史と成果・世界の情勢について、公定法化委員長の小熊幸一先生 (千葉大工) による講演が行われた。初期には JIS 関係者の理解がまるでなく、その良さを認識してもらえないまでの苦労話も紹介され、最近の成果として上水試験方法 2001 年版に FIA が採用された経

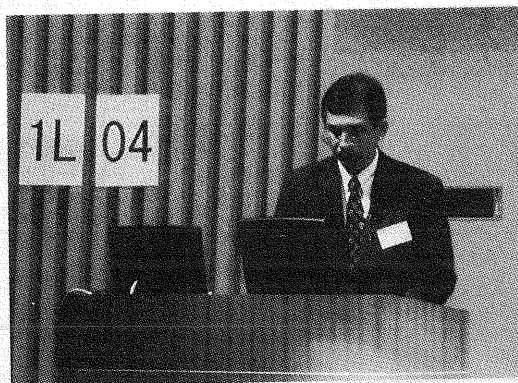


基調講演をされる原口先生

過や、今後、世界に向けた公定法への採用の必要性、可能性についても述べられた。創設当時、創設者の石橋先生と研究をされていた今任稔彦先生 (九大院工) からは、先生が既に現在の FIA の有り様を見通されていたことや当時から現在への研究経過と発展について講演があった。

基調講演は講演主題である「環境化学分析の自動化と高度化」にぴったりのタイトルで原口紘丞先生 (名大院工) が「人間と自然が共生するための化学の役割」と題して講演された。共生の含む意味とこれからは環境を汚さない分析法が強く望まれており、FIA はまさにこれに適した方法として重要な任務を担っていると、改めて FIA の長所を強調され、聞いている人達は意を新たにしたことと思う。

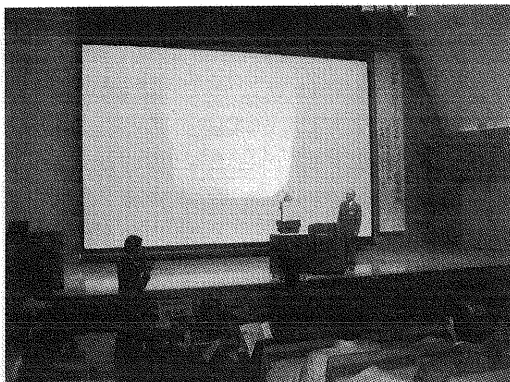
Kate Grudpan 先生は「Some developments of flow injection and related techniques: Some contributions from a research group in Thailand」と題して、様々な新規システムを紹介された。Prof. Christian や Prof. Dasgupta とともに積極的に交流されていた。講演の最初に風光明媚なチェンマイの映像があり、2001 年に開催された 11th ICFA を懐かしく思いだされた先生方もおられたようである。Duangjai Nacapricha 先生は「Challenge to selective monitoring of iodine species in flow injection analysis」と題して iodine の FIA を紹介され、活発な議論が行われた。



講演される Dr.Kate Grudpan (Chiang Mai Univ.)

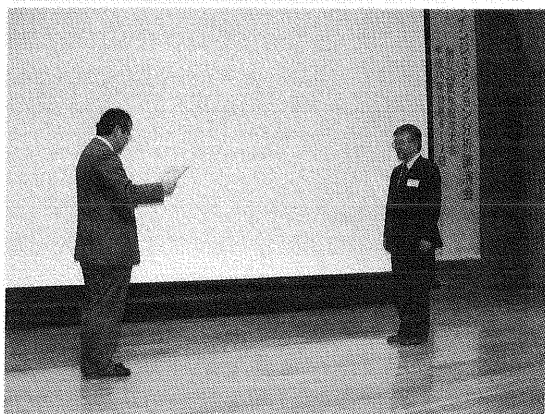
この他の特別講演は 4 件であった。石井大道先生 (元名大) による「キャピラリーの化学分析法への応用」では長年流れ系分析法に携われ、示唆に富む問題提起をしていただいた。高村喜代子先生 (元東京薬大) の「Ti(IV)-ポルフィリン試薬を用いる過酸化水素のフローインジェクション分析とその汎用性」では需要の高い過酸化水素の定量について特異的試薬の有用性とその

応用についてご講演いただいた。また、「連続流れ分析の実用化」と題して吉川裕泰氏（鋼管計測）、「サイクリックフローインジェクション法による連続モニタリング」と題して善木道雄先生（岡山理大）の特別講演があった。



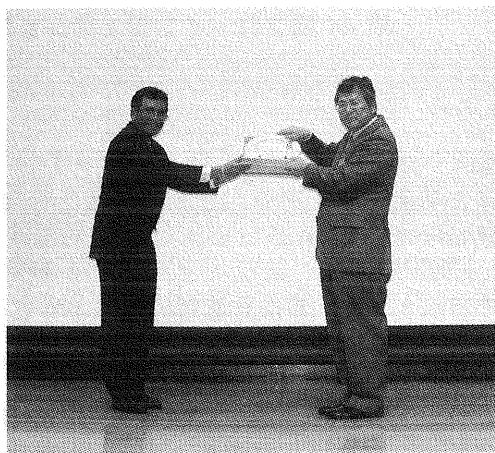
講演会場の模様

第1日目の講演終了後、FIA各賞の授与式が行われた。創立20周年記念大会に当たりこれまで当研究懇談会に功績があった荣誉賞受賞者について褒賞委員会の小熊先生から選考経過の説明があり、続けて酒井先生から学術賞、奨励賞、技術開発賞、論文賞の選考経過の説明があり、運営委員会で承認された旨の紹介があった。今回は、FIA学術荣誉賞9件、学術賞6件、技術開発賞2件、奨励賞2件、論文賞2件と例年より受賞者が多かった。なお、受賞者のうち7名は今回招待されたタイ研究者2名を含む海外の研究者であった。受賞者については本誌（147ページから）に掲載されているので、そちらをご参照いただきたい。その後舞台上で表彰式が行われたが、舞台が多少広く感じられた。



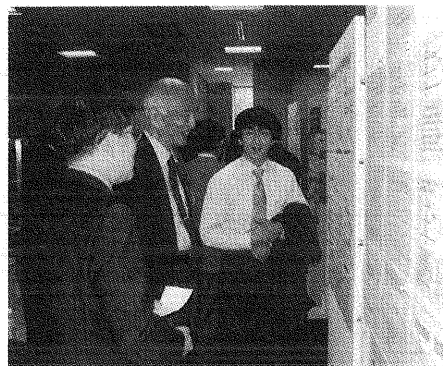
荣誉賞を受けられる四ツ柳先生

また、当研究懇談会創立20周年を記念して、Dr.Kate Grudpanよりお祝いの銀製のプレートが研究懇談会に送られた。



Dr.Kate Grudpanより記念のプレートを受け取る本水委員長

ポスター発表は2日間にわたって昼食後の時間帯に行われ、第1日目20件、第2日目18件の講演が行われた。休憩室、製品展示場に隣接した会場では、活発な議論が行われ、通路が少し狭い感があった。

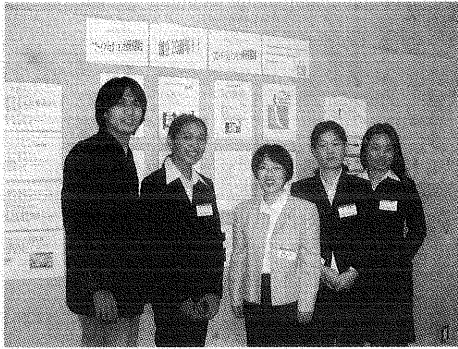


ポスター会場にて



休憩所でもディスカッション

15周年記念大会の時のように十分な歴史展示はできなかったが、東京コンフェレンスでポスター掲示したものを手直しして展示しておいたところ、結構好評だったので喜んでいる。



FIA 研究懇談会創立 20 周年紹介ポスター前

第 1 日目の 18 時から大学の Peach Union 食堂で懇親会が行われた。懇親会には各賞受賞者（四ツ柳隆夫先生，河島拓治先生，渡辺邦洋先生，吉村和久先生，大浦博樹先生，Dr.Kate Grudpan 夫妻，安田誠司氏，坪井知則氏，松岡史郎先生，李 啓榮先生，板橋英之先生，関 達也氏，平野義博氏，小熊幸一先生），招待講演者，参与の桐榮恭二先生，協力企業等々約 80 名を超える参加者があり，樋口慶郎氏の司会で大いに盛り上がった。



懇親会場にて



懇親会場にて：Dr.Kate 夫人，本水夫人，Dr.Kate，Dr. Nacapricha，本水委員長（左から）

当研究懇談会の会員は最近積極的にグループを組んで海外の学会へ参加する機会が増えており，会員同士の親密度が進んでいる。もちろん出張先でも親睦を深め，今回来日のタイのメンバーとは 2001 年 12 月にタイで開催された 11th ICFIA で旧知の仲であった。特に番外編ですっかり意気投合して友達になった FIA 研究懇談会の若手！グループは田傘をお土産にいただき，ごきげんであった。彼らは懇親会終了後，喜々としてタイ人学生を全員引き連れて，ネオン華やかな本場のカラオケボックスへと消えて行った。



Dr. Duangjai Nacapricha（右前）と記念撮影

晴れの国岡山と自慢しているのに，天気予報では初日かなりの雨が降るとの予報で心配していたが，幸い曇り空で傘をさすほどの雨は降らず胸を撫で下ろした。現在タイの 2 つの大学 Chiang Mai University と Mahidol University から本水研に留学生が 5 名来ており，通訳，案内役を買って出てくれて，タイの両先生には岡山で不自由なく楽しく過ごしていただいたと確信している。また，最近はこのような規模の学会を引き受けておらず，学生は経験がなく，受付が混乱した。参加費を受け取り，領収書を探して渡すためどうしても時間がかかってしまったため，ご迷惑をおかけした。今年はかなり過密な学会スケジュールで，実行担当する講演会が近い時期に 2 つも重なったのも初めてで，なにかと不行き届きの点もあったかと思いますが，ご容赦ください。

FIA 研究懇談会の会員の方達には他人とは思えない親近感があり，みなさまのご好意に甘えてなんとか乗り切れたと感謝しています。紙面をお借りして，ご協力いただきましたみなさまに厚くお礼を申し上げます。